（昭和[illegible]年[illegible]月[illegible]日 第三種郵便物認可）

昭和十二年十二月十二日　磐城毎日新聞　［木曜日］　第五千九百九十四號　（一）

一日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢　□一部 稅共 金二錢　□廣告料 一行 [illegible]　□電話（平）一七八六番　□振替口座 [illegible]　發行所 磐城毎日新聞社　編輯兼發行人 岡田弘成

夕情月旦〔下〕

―青龍集佳作評―

村上梅信

麥茶ふくむ[illegible]面を法師蟬　伊藤女樂子

評、暑氣や疲勞を慰すべく麥湯一服といふところである、夏は氷水、冷コーヒー、冷ら御々といつた冷い飲物がよく所望されるはされ等、一時の凌ぎであつて、熱い飲物をあほつて汗を流へ一沸、拭ひ取つた後の快氣は又格別なものがある、[illegible]燒の形をまざまざにして、その麥茶をあほり吹いてゐる緣端にゆつたりとした沿への夕べ吟情は、勤勞奉仕の力強さ等窺はれ俳味たつぷりである。

百合の花去りにし蝶の歸へり來ず　丹羽松影

評、庭百合花であつたか或は瀧茶屋の休憩ある觸目中草叢に白鮮な百合花であつたかは此句の境地にかゝはりはない、又花の甘さを求めんと草原を探し來てこの百合花に止まつた蝶であつたか或は既に百合花の甘さに憑いて久しくぶら下つてゐた揚羽であつたかも又此句の境地に詮議立の要はない、句意は目の當り蝶を添へて天地配合の美を描いてゐた情緒が、ふと翔ち去り失せし一匹の蝶に白百合の環境おのづから暗さを感じ然も再び蝶の返り來らざる淋しさは。白百合の孤獨を想ひやりて一入の感激が溢れた事であろう。佳句

落ちつかぬ心螢へ水を吹く　西久保鶴歩

評、落ちつかぬ心、それは人待ちあぐむ苛ら立ちであつたかどうかは此の句吟味する第三者の體驗に任せてよい、作者は必ずや的句を再誦することに依て當時の落ちつかぬ心境を呼び起し、そして螢へ水を吹いた事象　再び當時の感激

境に悟入するであらう、俳句、それでよい、扨て句意は、何事かに據る落ち付かぬ心、寧ろ苛立ち、心を、水を含んで押え、そのるせなき心を螢籠に吹いた螢の如何にぞ覗き込れ暗がりに、いくつかの死光りなき螢のむくろを目撃して呼鳴と一息歎息を洩した處であろう、共鳴ある、詠歎である。

旅燈に夜の底する波きゝぬ　佐藤潤

評　燈籠を流して禪頂に入る時、燈の明滅する視野にただ波む水は更闇くる[illegible]あたであろう、座五のきゝぬが全句の境地を活かしてゐる。

その日〳〵

12月12日

▽英國新帝ジョージ六世御即位布告に御署名▽張學良軍兵變、蔣介石を西安に拘禁（昭和十一）▽南京對岸浦口陷落▽馬場內相辭任！末次大將後任に決定

（昭和十二）

○

品性の美は凡ての美中の最美なるものなり　國木田獨歩

折々の歌

坂井政子

○月夜風へのり吹くらし庭木々の葉なみは白く葉うらかへしつゝ

○今宵又兵のたつらし日暮時町會の小使ふれて來にけり

○いでたてる父にすがりて幼子の何がみやげをせがみて居るも

○やうやくにさがしあてたる嬉しさよおとなふこゑのふるへやまざり

○朝夕をこゝにぞありて師の君のものか、きまの見ねてきにけり

連續講談

異說赤穗浪士

別題「異說赤穗義士」「赤穗誠忠錄」

〔78〕

桃川若燕

畫　城木齋

婿取の下心

「しかしまア緣談のことは後日と致して實に餘り奢なのお働きが美事であるところから突然斯樣なことを上げた、それに就て一應の身の上をお聞かせ致したい。我等は知行は二百石を頂き、代々淺野家に仕へ、一度不忠の名を取つた事は一度もない。妻は家付の娘で、又我が娘は名をせうと申して縹緻は美しくはないが志は十人並勝れてゐるお積だ。又一人の倅があつたが生來の短氣者で五年前に旗本の家人と口論を致し、刀の柄に手をかける間もなく拔打ちに斬られて死んでしまつた。とき十五才。我等はそれを遠方から見て逆緣乍ら倅の仇を追ひつゝて一刀の下に相手を斬つた事がある」

「成程」

「其所で我等娘のせうに婿養子をして堀部の名跡を相續させたいと諸方を尋ねるがさて帶に短し襷に長し、で手前の氣に入つた婿がない。しかる計らずも今日貴殿に對面いたしいろ〳〵と働き振りを見て、アヽ、結構な婿だ、斯う云ふ養子ならば――と思つてついロに出たやうな次第イヤどうも面目もござらん」

堀部彌兵衛大口開いて笑つてから又話を繼ぎ、

「併し中山氏、我主人內匠頭樣は御名君にあらせられるぞ、主人を賞める譯ではないが、播州赤穗に於て五萬三千石、併し武士は御知行より家臣が大切だ。百萬石の知行よりも一人の忠義の臣が何れ程家の寶か知れん。先づ第一に大石內藏之助、家柄でもあり名代の器量人、次は吉田忠左衛門、御知行は二百石山鹿甚五左衛門の爾門」

「その儀は武林氏より予て承はり居ります。何れお屋敷へ罷り出でましたる節――」

「左樣でござるか、如何でござらう、我等主人に御家老のおゐはござらんか、我等推參致すが――」

「手前は二君に仕へるはござらん」

「イヤ御尤もだ、どうも御立派なおゐだ、さうなくてはならん、さ、に中山氏尊公、文武の道のお話を致したい。手前も一度お[illegible]でござらんか」

「何れ爾三日中に罷り出ます――」

「爾三日內では待遠しい。どうでござらう今夜お出を願へまいか、拙者屋敷は武林と同じ並びの小屋故、是非お出でを願ひたい」

武林唯七が傍から

「堀部氏！左樣[illegible]さんでも中山氏は酒の匂ひさへ致せば招かんでも參る、決してお懸念なさるには及ばん」

「[illegible]ところが最前から申されるが、貴殿御息女は今年お幾才におなりなさるか、婿をお探しなさる樣な娘子はお出でないかに思ふが」

「我等娘せうは今年五才」

「五才で婿を……」

「されば[illegible]子供だが[illegible]になる。先づ十二三年經てば立派なものだ」

武林が噴き出した。

「イヤ左樣な事はどうでもいゝとし、兎に角酒の支度をして是非お待ち申す」

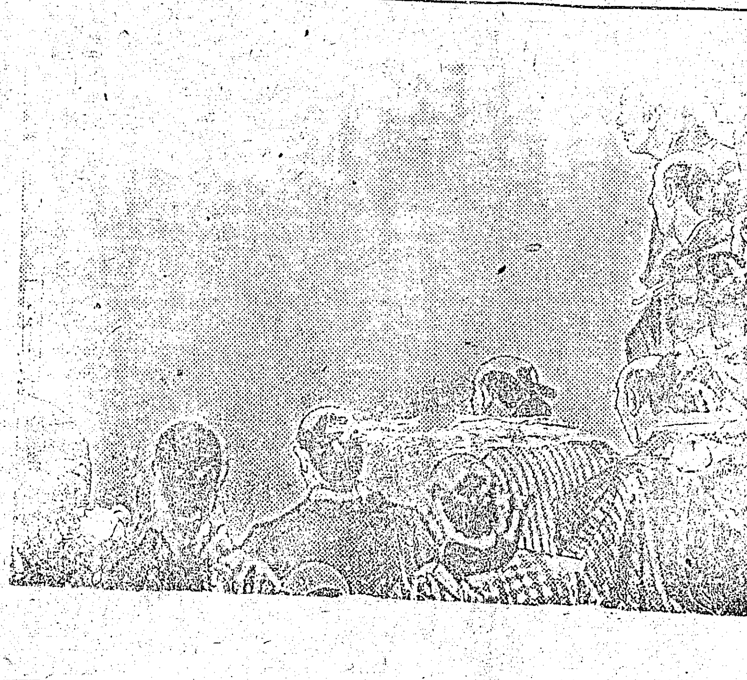
「必らず罷り出ます。何分にも今日は急ぎますからこれにて」

安兵衛に別れて鐵砲州の屋敷へ戻つて來た堀部老人

「只今立戻つたぞ」

「お歸り遊ばせ」

玄關に出迎へたのは彌兵衛の連れ合ひ六才のときに彌兵衛が婿になつた、そのとき彌兵衛は四十二、今では彌兵衛六十才を越したが、お通[illegible]今はまだ四十に手が屆かない、お母は正德尼と云つて今年八十餘才、內匠頭長矩公の先代、采女正長友公にお乳を差し上げたこともある一の老人。年はとつても却々しつかりしてゐる。



小兒科・內科
酒井醫院
入院隨意
平市南町（電五五番）
醫學博士 酒井保

田每の
おしること
おぞうに
中田町電632

メガネ專門の店
メガネは絶對信用ある當店に
先づ御相談下さい……
平市本町二丁目
玉屋

新刊書籍
月刊雜誌
特價圖書販賣店
三英堂 村山書店
平市中央通（驛前通）

外科一般
內臟外科
肛門病科
皮膚黴科
泌尿生殖器科（婦人科）（性病科）
專門
平市字鍛冶町
白土醫院
電二七九
（入院隨意）
看護婦及見習看護婦募集

建築木材ノ御用命ハ
木材、天上板、ベニヤ板、建具材、木羽、假羽、瓦、建築木材一式
⑦織田材木商店
磐越東線赤井驛前
電話平局六〇番
製材工場（大作場二五）電話二三五番

西村醫藥局
電話三番です
藥品百貨と
寫眞機材料の店です
平市本町二丁目
西村屋藥局

精神病科
腦脊髓病科
神經病科
內務省指定
福島縣代用精神病院
郡山腦病院
郡山驛より約三十丁 [illegible]
入院隨時
院長 醫學士 [illegible]
電話九二五番

國產ニッポン魚は凍魚の
日本水產特約
御贈答に御會食に
平製氷株式會社
甘鯛　マナ鰹　帆立貝柱　ウニ貝燒
ヒノマル凍魚
平 鍛冶町四丁目 [illegible] 魚問屋
[illegible]一尾一箱ヨリ[illegible]

產婦人科
井坂醫院
見習看護婦入用
平市田町 電五五九

男女車掌募集 數名
年齡16－19
未經驗者ニテモ可
給料其他委細面談
平市驛前
野崎交通自動車株式會社
電三四〇・三四三

耳鼻咽喉科專門
平市新町一六番地
大和田醫院
（入院隨意）
電[illegible]

產婦人科
外科一般
花柳病科
【見習看護婦募集】
小名濱町學校前
黑澤醫院
醫學士 黑澤賢
電話四五番

始めました
燗酒　ゆであづき
おでん　お志るこ
營業所 第一酒場 第二酒場

大衆向きの
奥の松
小名濱町中島

能率的な自轉車で
銃前銃後は二人前の働き！
各種自轉車 販賣 修繕
小野輪店
小名濱本町四〇
……修繕は念入懇切に且つ迅速に御勤め致します……

江戸前 天婦羅
江戸前 小料理
おでん
小名濱上町
一平

お宅の体温計は正確ですか？
毎月十日は無料で体温計を檢査して差上げます。どうぞ御遠慮なくお持ち下さい
營業課目
醫療藥品　有名賣藥　食糧品　寫眞材料　機械　吸入用酸素
工業藥品　衛生材料　染料塗料　化粧品各種　計量器各種
計量器指定販賣所
みや、染特約店
資生堂
小名濱町本町通り
電一四七

御會食に
御商談に
割烹
幸樂
小名濱町幸樂通り
電話201番

日本油脂株式會社
特約店
ペイント類、ボイール油
ドライヤー、防錆塗料
船底塗料、屋根塗料
黒板塗料
一手販賣
(イ)磐城水產工業株式會社
小名濱町築港內 電一四四

割烹
はまや
小名濱公園內
電話百廿番

一般齒科
村上齒科醫院
小名濱小學校正門前
齒學得業士 村上豐

仲良部隊 少年隣り組生誕
決議・お母ちゃんの云ふことを聞く事

曠古の聖業を達成せしむる新体制は『となりぐみから……』と全國民擧げて大政翼賛運動に協力するの体制に邁進しつゝあるとき、平市内の一角に大人も顔負けするやうな仲良部隊〃少年隣り組〃が延生、全市民に「右習へ……」の示唆を與へてゐる

大人も〃右習ひ〃

少年隣り組は五丁目内の男女小學生を以つて去る十一月十七日(日曜日)結成式を擧げ、以來一回も缺かさず毎日曜日に例會を開き、午前六時を期して一同集合、町内の釜屋裏に當る子安観音や津島神社を清掃、敬神の觀念を深め、一同整列南面して宮城遙拜、戰死者の英靈に感謝し出征兵の武運長久を祈願の默禱を捧げそれから武子屋荒物店の裏で組長司會の下に隣り組の常會を開く、少年仲良部隊のメンバーは

△組長、萬二生馬目昭君(一四)副組長、尋四武子圭佑君(一一)△會計、高一布施孝子さん(一三)△組員、尋二布施挺一君(八)△尋一野崎利勝君(八)松本好弘君(七)尋六松本節子さん(一三)尋四野崎ケイ子さん(一一)尋五馬目芳枝さん(一二)尋三馬目八重さん(九)の十名で惡戯盛りの少年が男女仲良く年長者を尊敬、年下の者を面當見てゐる樣は大人も範とするに足るものがある

常會決議事項

一、毎日曜日に各自金一錢づゝ持ち寄つて貯金し、やがてこれをお國のお役に立つやう費ふ事、

一、お母ちゃんの云ふことを良く聞くこと

一、鼻をかむこと

一、手や足をキレイにすること

一、無駄費ひをせぬこと

一、みんな仲よく遊ぶこと

平市に又も試掘願
公益上支障あり
市會の諮問答申注目さる

十三日の平市會へ提案された石炭試堀に關する公益上支障の有無を問ふ諮問案は共同出願人の代表中平窪字大平一番地鈴木一久氏より出願に成るもので大字下平窪、中平窪、上平窪、鹽、四波と廣範な地域を占め、人家の稠密な區域から幾分離れてはゐる山林地にあるが同地域内には神社、寺院、墓地、溜池などあり中にも中、下兩平窪地域には千二百三十二町歩の耕地に灌漑する小川江筋と併行、四波に溜池もあつて地磐龜裂、陷設等の場合透水の危險がある爲市會は「公益上支障ある」と不決の答申を爲すものと見られてゐる

平市會の提出議案

十三日午前十時から開かれる平市會の議案は左の如くし

議案

一、十五年度追加豫算案

一、十五年度市民税賦課の件

一、市税外收入督促手數條例設定の件

一、市有地處分の件

一、區長、區長代理者辭職認定の件

一、寄附採納の件

一、收入役代理吏員推薦の件

一、石炭試堀願に關する諮問の件

加工用の生魚保有に 冷凍庫を増設
六萬圓で縣魚聯工を急ぐ

四倉町に事務所を置く縣漁業組合聯合會では同町海岸埋立地に七百トンの收容力を有する冷凍庫を經營してゐるが最近加工業が盛んになりこの原料と成る生魚の保有に加工業者は困憊を極めてゐる處から全聯合會は更に七百トンの收容力を有する冷凍庫を建設して漁業の振興と加工業の發達に資することになり六萬余圓の工費を投じ接續地に工を急ぎつゝあり明春二月頃竣成せしむる豫定である

全冷凍庫の新設に依つて組合の生魚收容力は千四トンに成る爲頰刺しの原料鰯を初め加工品の原料が豐富に蓄積されるものと業者間から完成を期待されてゐる

商港通過報告 臨時町會
喜びに滿ちた小名濱

第二期商港擴張工事豫算大藏省通過の重荷を下した小名濱町では當の立役者小野町長の歸町を待つて明十二日午後三時から役場樓上に町長の商港通過報告の臨時町會を招集することに決定した

となりぐみを語る (7)
異つた『雰圍氣』を正す
十五丁目三組 第十群隣り組(一)

> (前文略)貴紙を利用し吾が組を語り合つて相互に滿たざるを補ひ、新体制に即應してよりよい隣り組を作ることが國家に貢獻すると考へまして敢へて貧貧な稿を寄せる次第であります
>
> となりぐみ係殿

この街の平丁の

當群は十五丁目及小太郎町を含む廿八區三組十群隣組にて十六軒を一群とされ、古い人と新らしい人達と約半々職業別も奉給取りの方、商賣人の方、恩給生活者の方、建築家の方、土木家の方、其他種々の商業を持たれる家族を一体とせる群で從來田畠であつた關係からか第一回防空演習は二分されて居りましたが地域の關係から第二回目より一体と成り隣組を型成した譯です、しかし相變らず食はずぎらいとでも言いますか内の原因も意味もなく東西に二分され勝ちで防空演習後の座談會などでも右と左に坐を取る樣な舊体制とでも云いますか不思議なアトモスフイア(雰圍氣)の中にあつたのですが隣組が誕生して以來誰れがしたのでもなく右と左がなくなり本當に回を重ねるごとにホガラカ會合となつてゐます……

九月七日隣組組織最初の日

一、隣組の重大な役割と意義のお話し

一、新体制のお話し

一、國防國家の重大さの御話

一、常會日の意義の御話し

一、二宮尊德翁の偉大なる足跡の御話し

一、江戸時代五人組と現在の隣組組織の相違と意義の御話し

以上のことを話合ひ同時に左記を申合せました

一、毎月一日興亞奉公日を常會日となし第一に宮城遙拜し皇軍の武運長久を祈り靜座して一分間瞑目して各自があらゆる角度から得た有意義な話を話合ふことしかし其の場合個人的に相互間のみが理解し得るに非ずして出席者一同心から理解し合へる樣話し合ふこと

一、精神的に向上を計り古き人も新しき人も最も自然に此の十六軒の家族が十五丁目の一角に誕生し裸の同じ人間同志が大家族の共同の精神で共同の生活を初めるといふ氣持で一体となつて行くこと

一、常會日には一名以上出席されること即ち一ケ月七百二十時間の中に僅か二時間の意義ある常會の時間を作られ精神的に良心的に本當にホガラカな道場として過して頂くこと

一、話し合い又は申合せしことは謄寫板又はタイプライターにて各戸に配布し保存を願ふこと申合せ

以上が隣組が初めて生れた日の話合いでした

街の新体制
—平市地域・小名濱道路 地方都計案決る

内務大臣の諮問案を審議する第十一回都市計劃福島地方委員會は十四日縣第二會議室に開き、會長橋本知事以下委員二十餘名、幹事平市伊藤助役、全高木助役出席、『平市都市計劃地域指定』『小名濱都市計劃道路擴張新設等受益者負擔規定、同街路事業』その執行年度割等審議左の如く決定した

平都市計畫地域の指定

平驛以南の部分で南西を貫通する國道六號線を中心とする付近一帶は當市交通商業上要衝の地で銀行、會社主要商店等をはじめ娯樂機關などあり現狀並に將來の都市構築上商業地域と定め夏井川右岸より國有鐵道常磐線の兩側及び新川兩岸を工業地域に市の西北の高臺地及びその麓一帶及び内郷村に接する地を居住地域と定むるを適當とす、また國有鐵道磐越線と同鐵道線との交會點に沿ふ北側高臺地及び好間川と夏井川との間に介在する土地は現在及將來の土地利用狀況を考察し未指定地として保留した、この地籍左の如し(單位ヘタクール)

△住居地域一九五(四三、二%)△商業地域六一(一三、五%)△工業地域一五〇(三三、二%)△未指定地四六(一〇、一%)合計四五二

小名濱都計道路新擴築受益者負擔

小名濱商港修築工事完成に伴ひ市街地の中心部と港灣との交通緩和を計り將來の發展に備へ十ヶ條に亘る規程を制定

一、道路新設の場合はその事業費の五分の一、道路擴張の場合はその事業費の六分の一とす、

一、負擔金はその負擔區の事業着手の日の現在による受益者よりこれを納付せしむ

一、事業着手の日は町長これを告示すべし、各受益者の負擔額を決定したる時は町長これを受益者に通知すべし

一、町長は受益者をして町長の擔當と認むる擔保提供せしめ且つ利子に擔當する増負擔金を納付せしめ、五年を越えざる期間において負擔金の分轄延納をなさしめるを得、

一、土地物件勞力若しくは金錢を寄付したもの、或は町長が適當と認めたものに對しては負擔金を減免することを得

△小名濱都市計劃街路事業およびその執行の年度制(一)船引場定西線(起點同町字渚終點同町字定西)幅員一五米延長六二〇米(二)昭和十五年度約六割九分同十六年度約三前一分

平市慶弔録

【婚姻】平市一丁目二十番地綿引亥三男(三〇)と石城郡上遠野村芳賀顯長女多禰子(二七)

【出生】平市舊城跡四番地蛭田義光三女美也子さん

四倉驛の十一月中業積

四倉驛十一月中の乘降人員は乘車、一萬九千四百六十五人降車、一萬九千七百五十七人

轉失對策
更正委員會

十二日午前九時から平市會議事堂で商工更正委員會を開き縣から櫻井屬臨席中小商工業者の轉失業者問題に關し協議する

磐中、磐女學級増加問題で 關係者一同縣へ陳情
地元側は新學期實現に邁進

縣立磐城中學と磐城高女の學級増加問題は既報の如く兩校當局並に同窓會側も眞劍な態度を以て臨み磐中側では二萬圓の工費で寄宿舍改造案を樹て、一方磐女側も十日の同窓會役員會で別項の如く増設案を絶對的に支持し山森磐中、正木磐女兩校長並に地元の青沼平市長、伊藤町村長會等は十日出縣 小野、關內、蓮沼、木村、赤津、草野、坂本の七縣議同伴して橋本知事に増學級實現の陳情した、縣の意向を確めた上兩校同窓會、市町村側が建設費問題等具体的に計劃して明春新學期に備るやう急速に對策を講ずる筈である

磐女も方針決る
二階建新築ご現校舍改造

學級増加問題に關する磐城高女櫻丘會(同窓會)役員會は十日午後時一から母校に開き役員三十餘名出席、正木校長から學級増加に關する事情を報告、寄附金問題は追つて市及石城町村長會と具体的に協議することに申合左の二案で進むことに決定した

◇第一案

現在の農園を潰し四教室並に理科室、裁縫室の特別室を加へ二階建とする、この工費見積り四萬六、七千圓

◇第二案

現校舍を二階建とする?但し基礎を補强一部改造を要する爲工費は三、四千圓減少する程度か

尚新學期に建築が間に合はない場合櫻丘會が構内に建設した花嫁學校(櫻丘會專修科)を第一年度だけ暫定的に流用教室に充當することも出來るので縣の方針次第で磐中、磐女兩校共新學期の備へ出來てゐる譯である

逆行した小春日和
變調陽氣に注意

きのう迄で空ッ風の寒食でオーバーにマスクとすつかり冬仕度に成り濟した石城地方の陽氣もけふは汗をかく暖い小春日和、このお天氣を小名濱測候所に聽いて見る

日本海に低氣壓が發生し大平洋上の高氣壓から暖かい南寄りの暖風を送つて來るためです、こゝ一兩日中には又寒さが訪れるでせう

平、四倉管内 保護馬査閲

十二日午前八時から四倉海岸で平、四倉兩署管内平、神谷草野、夏井、廣野、大久、久の濱、四倉、大浦、大野の軍用保護馬査閲が執行される

平市の鍛錬會では午前三時幕の内橋に集合、四時出發して參加する豫定である

小名測候所長 津市へ榮轉
後任秋田測候所長

小名濱測候所長田代武四郎氏は十日附で三重縣津測候所長に榮轉することになつた、後任は秋田測候所長猪狩重光氏と決定

田代氏は昨十四年六月一日着任、以來同所の充實に努め所員を當時の四名から一擧に十二名に增員、反面管内の觀測陣を强化新たに植田、川前、川内、浪江等に氣候觀測所を設置、日射計も取据けて産業側面援助に盡した功勞者である

氏の赴任は十五日の豫定で町では氏の功に報ひ記念品を贈る計畫を進めてゐる

鰯の豐漁つゞき
小名濱市場活況

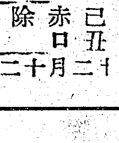
鰯群回游と共に揚繰船も活潑な活動を開始、連日の豐漁に濱は割れるばかりの活況を見せてゐる、昨十日は 壽和丸 大勝丸、機運丸、共德丸 など何れも一統一千五百ダメシ(籠)の水揚げで値段も三圓五十錢から二圓八十錢見當を往來してゐる

地代家賃統制令の 適正を誤るな
十七日趣旨徹底懇談會

十七日午前九時から第三小學校で平署管内一市二町十五ケ村の地代、家賃統制令の趣旨徹底に關する懇談會を開くことに決定、參會者は市町村の係員及地主、家主等で地代や家賃は直接國民生活に及ぼすものであるから「適正を誤つて相互の迷惑にならぬやう」と縣當局の親心から特に周知せしむるの方法を執つたものである

統制令の根本を爲すものは昭和十三年八月四日の賃貸を基準とし、その後値下げしたものは引下げることを原則とし、若し値上げる場合は其の理由を申告して縣知事の許可を要する

この原則さい知つて値上げに對處すれば間違ひはない譯である



舊十一月十四日
木曜 己丑 赤口 除 斗宿
新十二月十二日

▲一白 人の世話事は斷り得らるゝ丈け斷るが利し▲二黑 多少の骨折はありとも自然の增收あるべし▲三碧 實力を顧みず過大なる事に手を出せば失敗▲四綠 獨斷にて事を處する時は失敗目上に謀るべし▲五黃 物事急には運ばざれども末遂ぐる平和の日▲六白 投機業を除きての外は何事も進んで吉き日▲七赤 守るよりも進むを先きにすべき日 旅行は凶▲八白 内輪に事なき樣和合を主とすれば吉と成る▲九紫 幸運に向ふ日心圓滿なれば尤も早かるべし

病室增築、手術室完備
産科 婦人科 醫學博士 五十嵐雄二
平市新川町 「電話三二六九番」

附屬産院 新設
姙産婦入院随意
産科 婦人科 木村病院
平市新川町 電話一六四番

平病院(平市元共濟病院跡)(電話六四一番)
院主 院長 醫學博士 鈴木定藏
内科 小兒科 院長 鈴木定藏
内臓外科 一般外科 皮膚泌尿器科 副院長 高橋俊幸
レントゲン科 物理的療法科 院長 鈴木定藏
藥劑科 部長 吉本孝平
診療時間 毎日午前八時より午後九時まで夜間診療に從事す(急患は此の限りにあらず)

内科、小兒科 外科、花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科
平市田町 電話五一三番
高久病院
院長 醫學士 高久忠

皮膚、泌尿器、性病科
江尻醫院
江尻伊三郎
平市田町 電話六九一番

根本産婦人科醫院
平市南町
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番
(入院随時)